

黒田諸左衛門利郷拜銘 石製燭臺 残欠

【令和4年7月27日 市指定 有形文化財】

石製の燭台の一部で、燭台に刻まれた文字から黒田諸左衛門利郷という人物が、先祖の墓を改修する際に建てたものと思われます。諸左衛門の先祖・黒田養心は、黒田孝高（官兵衛、如水）の弟で、黒田二十四騎の一人に数えられた功臣として有名です。養心の屋敷は市ノ瀬にあったと伝わっています。文献によると、養心は屋敷と同じ場所に葬られ、その墓を子孫の諸左衛門が修理し、瓦屋・石階段・石製燭台2基を建てたと書かれています。この燭台に刻まれている銘文から、文献資料の記述を裏付けるものとして評価され、指定されました。



黒田諸左衛門利郷拜



天明四稔甲辰三月五日

一七八四年（江戸時代）
きのえたつ（平安の二つ）



▲石製燭臺の一部と銘の拓本
左の写真のような燭台の一部分と思われます。
燭台に書かれていた文字は、实物に紙をあて、墨で凹凸を写し取る「拓本」によって、読み取ることができました。



▲黒田二十四騎画帖より、黒田養心の図
(福岡市博物館蔵)